

2月

ほけんだより

気温が低く乾燥した日が続いています。2月4日は、暦の上では立春で、春を迎える時期とされていますが、まだしばらくは寒い時期は続きそうですね。嘱託医の石川先生によると、インフルエンザが近隣の保育園で増えてきているようです。園では鼻水などの風邪症状のお子さまが多くなってきています。感染拡大防止のため、引き続き症状（発熱、咳、鼻水など）がある場合は早めの受診、休養をとる、などご協力をお願いできればと思います。よろしくお願いします。

尿検査のお知らせ

腎臓疾患の早期発見のため幼児クラス（ねこ、とら、らいおん）を対象に尿検査を園で実施します。

3日（金）に検体容器を配布いたしますので、6日（月）、7日（火）に玄関に設置している尿検査の回収ボックスに採尿した容器を入れてください。
朝の時点での提出をお願いします。（正確な結果がでにくくなるため）

検査結果はあくまで目安です。検査結果はけんこうノートにて個別にお知らせいたします。

2月3日（金）に配布する用紙を参考に検査にご協力をよろしくお願い致します。体調不良などでお休みの場合は、後日検査させていただきます。
ご不明な点があれば看護師か保育士にお声をおかけください。

花粉症について

スギ花粉が飛び始めました。鼻水や咳など辛いですね。症状が強い方は我慢しすぎず、早めに受診し医師にご相談ください。

コロナ禍での花粉症対策

外出時

- ・鼻をかむ前に手指消毒を徹底
- ・眼鏡・マスクを着用

帰宅時

- ・衣類や髪をよく払って家に入る
- ・手洗い後、洗顔・うがいをしてから鼻をかむ

室内

- ・換気は窓を小さく開けて短期間に
- ・空気清浄機は部屋の出口付近に設置

1月の健康状況

- ★新型コロナ・・・3名
- ★発熱・・・・・・1名
- ★嘔吐、下痢・・・1名

2月の保健行事 福

☆8日（水）・・・ひよこ、なかよし
身体測定

☆9日（木）・・・あひる、ペンギン
身体測定

☆14日（火）・・・0歳児健診

乳幼児の鼻副鼻腔炎について

鼻副鼻腔炎は多くは風邪をきっかけにして起こります。

主にウイルス感染に続いて起こる、細菌による副鼻腔の二次感染です。

風邪をひきやすい小さいうちは副鼻腔炎を繰り返し、症状が続くこともあります。

【症状】

黄色や緑色のドロツとした鼻水が続いて、鼻づまりや痰がからんだような咳をしたり、寝ている時に鼻詰まりのためにいびきをかく場合もあります。

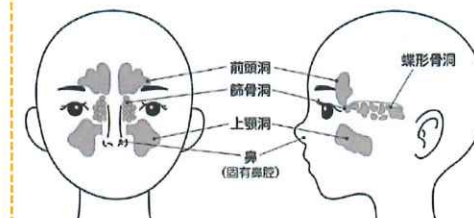
このような時は早めに耳鼻科を受診し、慢性化しやすいように注意しましょう。

【対応】

- 鼻をかむ時は片方ずつゆっくりとかみましよう。
- 鼻をかむのが難しい年齢のお子さんの場合、症状を繰り返し見られているお子さんは耳鼻科を受診して治療を受けましよう。

一部引用 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 こどものみみ・はな・のどの病気 QA
(http://www.jibika.or.jp/citizens/kids_entqa/hana_mansei.html)

（副鼻腔ってどのあたりなの？）



ちゃんと聞こえているかな？

病気で起こる難聴があります

聞く力は、言葉やコミュニケーション力を育むために欠かせないもの。難聴がある場合は、一日も早く専門的な治療や指導を受ける必要があります。難聴には先天性と後天性がありますが、2～6歳の難聴の原因の大部分を占めるのが滲出性中耳炎です。程度は軽くても数年にわたって続くと、言葉の習得に影響が出ることもあります。聞き返しが多くなったり、テレビに近づいて聞く様子などが見られたりしたら、早めに耳鼻科を受診ましよう。

【難聴の原因になる感染症など】

中耳炎 おたふくかぜ 先天性風しん症候群など



妊娠中の風しん感染で、
胎児が難聴に
なることも



おたふくかぜの
後遺症で難聴に
なることもあるよ